

大阪府高校生留学支援金留学報告書

2015年 1月 20日

学 校 名		支 援 金 交 付 年 度	25 年度
氏 名			
留 学 期 間	平成 26 年 1月 27 日 ~ 27 年 1月 12 日		
留 学 先	国 名	カナダ	学校名 Prince Albert Collegiate Institute
専 攻			

留学中の生活、留学の成果、留学で得たことをどのように活かすか、これから留学する人へのアドバイス等について2000字以上で記入してください。

九ヶ月で過ごした1年間を振り返ると、とても短か、たとうに思います。しかし最初の2、3ヶ月は言葉も通じず、友達もなかなかできず、周りの人から何を言っているかも理解できず、辛い日々が続き時間が過ぎるのがとても早く感じていたのを覚えています。家族や友人たちから離れ、言葉も文化も違う異国の地でたくさんの新しい思い出と辛い経験をしました。九ヶ月に行なわれたければ「知ることのできるか、たこともたくさん知ることが」ときました。言葉が通じないことと周りの人との話していることが「理解できないこと」コミュニケーションができるか成立したりといふもどかしさを知りました。それは本当に辛かったです。しかし半年も経つともう留学生活の半分が終ってしまったのがという焦りのようだったものを感じました。半年経つと最後の半年は本当に寂しいという間に終わりました。友達もたくさんでき、周りの人から「話していることもほとんど理解できませんようになりました。さらに自分の英語力も上げることができ、卒業時はみんなにも大変だ、た、「コミュニケーションをとる」ということができるようになりました。人が話している英語が聞きたくなるように、たと感じた時は本当に嬉しかったです。九ヶ月で日本人の友達と映画を観に行き、その話が「理解できた」時はとても喜んだことを覚えています。ホストファミリーや友達と普通に日常会話ができるようになりました。お店で注文する時、間違われることなく注文することができるようになりました。何気ないようなことに喜びを感じました。また、日本のすばらしさをあらためて実感することができたのも九ヶ月に来ていては「知ることのできるか、たことのひとつだ」と思います。もちろんもとから生まれ育った日本は好きでしたが九ヶ月に行なから日本食のすばらしさ、つまり

おいしいこと、栄養が“夫婦”へとしっかりとれること、種類が“豊富”なことなど、また、日本人の温かさ、謙虚さ、そして他人に対するまもたらしいの“心”に気がつくことが“ございました”。また、日本には家族と友達が“どちらほど”私を支え続けてくれたか、そしてどれほど“私”は、この大切さかということに気がつくこともございました。1年間留学することは必ずしもたくさんの人が“ござる事”ではないと思います。しかし私は九十日に行、この英語を学ぶことが“ござり、とのたうたが恵まれた環境に身を置くことが“ござること”を支えてくれた両親をはじめとした周りの人々に心からの感謝の気持ちござります。

この貴重な経験で得た英語力、精神力、忍耐力、そして新しい人々と関わるためにコミュニケーション力などをこれから的人生のいざいざな場面で発揮したいと思、ございます。留学に行く前は保育士の仕事に就くことを夢に叶っていたのですが、帰ってきてみるとせっかく学んだ英語を生かせる職業に就きたいと思う気持ちが“ございました”。たゞ“正直”いふとまだ将来の夢はほんきりとは決ま、ございません。しかし見方を変えると、この留学が私に新しい選択肢を与えてくれたととらえることが“ござり、それは留学に行くよか、たことのひとつだ”と思、います。

話は変わりますが、将来海外に旅行かたむけに“行く”行、たとき、この1年で覚めた英語を使、この現地の人とコミュニケーションをと、たゞ、買い物したりと英語が理解できることで一人倍楽しかるのではないかと思います。家族や友達と海外へ行、たときは率先して現地の人とコミュニケーションをとることで少しでも楽しい旅行にしたりと思、います。

もうたゞて、留学をさせてもら、たことにとても感謝していますし、本当に素晴らしい経験をすることが“ございました”。たゞ“この1年は本当に忘れること”ござり大切た1年となりました。幸いこともたくさんありましたか、留学したこと後悔したこと一度もありません。これから留学に行く人たちは私のようにたくさんの辛いことにぶつかってそれを乗りこえなければいけないかと思、思います。しかしとのぶんそれを乗りこえるとそれ以上の楽しい出来事に出会えたり、将来役に立つ力を身に付けることが“ござる”と思、います。私は留学して本当によかったですと思、います。

上記の内容については、公表される場合があることを了承します。

(申請者が□してください。)